

SIT Line Controller SLC-021



〈 Specifications 〉

構成	:	入力3系統 (アンバランス / Imp.50kΩ) 出力1系統 (アンバランス / Imp.150Ω)
電源電圧	:	AC230V
消費電力	:	13W
最大外形寸法	:	360W×140H×360D (mm)
重量	:	10kg

SIT Line ControllerはSITの優れた特性を生かし、音量をコントロールするという目的以外を一切持たせないことを命題とし開発されたプリアンプです。入力系統は3系統のシンプルな回路構成で、CDもしくはDVD/Player等との接続をコンセプトに、音楽ソースのダイナミズムを損なうことなくパワーアンプへと継承し、オーディオシステムの前段という非常に重要な役割を担うに十分な特性を持つ、優れたコントロールアンプです。

〈 Specifications 〉

SIT / OTL Power Amplifier SD-013

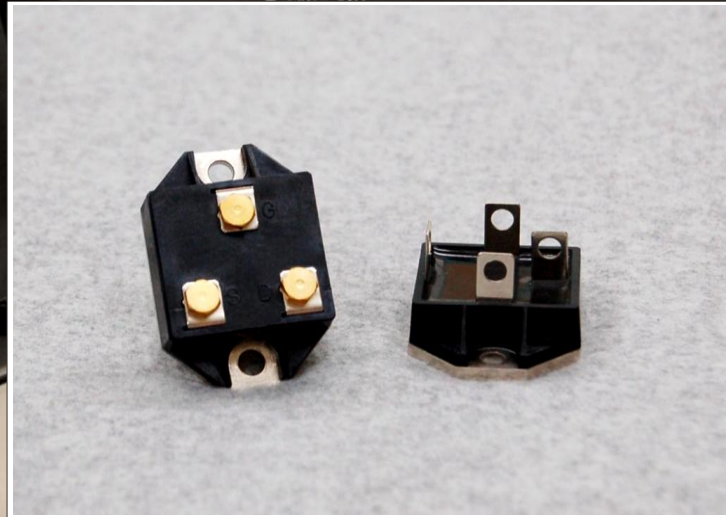


定格出力	:	ステレオ時 130W + 130W (8Ω) ステレオ時 200W + 200W (4Ω)
入力感度	:	ステレオ時 1000mV
入力インピーダンス	:	アンバランス 100kΩ
出力インピーダンス	:	アンバランス 0.5Ω
周波数特性	:	20Hz~20kHz
雑音歪み率	:	0.1%以下
付加機能	:	出力ワットageメーター
アイドリング電流	:	300mA
スタンバイW	:	100W
電源	:	電圧 230V 消費電力 200W
外形寸法	:	430W × 363D × 197H (mm)
重量	:	42kg

OTLアンプは出力インピーダンスが限りなくゼロに近いので、アンプの性能を直接スピーカーに伝えることができます。開発には強力な電源部の設計と回路の安定性の確立など、極めて高度で熟達した技術が応用されています。また、増幅素子であるSITはその特性の良さから時間軸の異なる段での歪打消し回路などを必要としません。マクソニックのアンプは全段N型で構成され、コンプリメンタリ回路を用いた相補をしないため、高域特性での信号劣化が起こらず、尚且つNon-NFBで組まれています。SITを搭載し、最もシンプルな回路構成を用いることで、音楽ソースを装飾・加工することなく本来の姿そのままに再現するのがマクソニックのSITアンプなのです。また、パネルなどの表面処理には〈古美加工〉と呼ばれる強制酸化被膜処理を施しています。意図的に古色を出し、レトロ調のワットageメーターとロゴ彫刻などを採用することで他にあまり類を見ない一線を画したデザインになっています。経年変化に強い古美加工は処理の過程で模様に微妙な個体差が生じ、一つとして同じものが無いのもデザインの特徴と言えるでしょう。

SIT/OTLアンプの特徴である濃密な中域と圧倒的な低域、そして非常にナチュラルな高域の魅力は、一度聴いたら忘れることが出来ない自然感を持っています。また、SIT / OTLアンプの音は極めて立ち上がり速く、衝撃的な音のダイナミズムが聴く者を圧倒し、自然で生き生きとした存在感と空気感、そして圧倒的な音場感を再現させることこそがSIT / OTLアンプの真骨頂なのです。

時空を越え、音楽再生の真髄ともいえる至上のハーモニーがここに再現します。



西澤潤一東北大学名誉教授（上智大学特任教授、東北大学総長、岩手県立大学学長、首都大学東京学長など歴任）によって開発された唯一・生粋の国産半導体デバイス。静電誘導効果を利用したもので、大電流にも対応でき消費電力は少ない。チャンネル抵抗を極限まで減少させ、低内部抵抗・高速動作・低損失を実現。入力された信号波形に忠実な増幅を可能とする非常に特性の優れた半導体デバイス。

〈 特徴 〉

- | | | |
|-----------------------------|-----|------------------|
| 1. 三極真空管特性 | ... | 奇数次高調波歪み少 |
| 2. 等 μ 特性であり、リニアリティーが良い | ... | 電圧増幅歪み少 |
| 3. 電圧増幅率が大 | ... | 少電圧駆動 |
| 4. 高周波特性が良い | ... | 利得帯域幅の積が広く、位相歪み少 |
| 5. 発生ノイズが少ない | ... | 内部発生ノイズが少 |
| 6. 出力インピーダンスが低い | ... | 良好な出力トランス特性が得られる |
| 7. 寿命が半永久的 | ... | 特性の経時変化が無い |
| 8. 熱暴走が生じ難い | ... | 破損し難い |

オーディオシステムにおけるアンプの果たす役割は、刻々とまた一瞬のうちに多様に変化する音楽ソースの情報をリアルタイムで忠実に、余すところなくスピーカーに伝えることです。

これはアンプの最終出力段における電気信号の正確さではなく、信号経路における正確さ、つまりアンプ回路内の各パーツ間できかに損失や加工なく、信号がリアルタイムに伝わっているかが重要であることを意味します。

そして、これを確立することが決して単なる電気信号ではない、「音楽」を再現することにつながります。この「音楽」の再現性はオーディオにおいて最も重要であり、この認識を怠ると「音楽」の再現性は一つ一つのパーツを通過する度に確実に失われ、それはその後どんな手段を用いても絶対に復活しません。

つまり、アンプ回路内でいかに正確に信号を伝達し、音楽の再現性を保つには、結局優れた特性のパーツを最もシンプルな構成で組み上げることが最善策となります。

SITはその特性の良さからNFBや時間軸の異なる段での歪打消し回路などを必要としません。

そのSITを搭載し、最もシンプルな回路で構成され、音楽を色づけ・加工することなく再現させるのがマクソニックのSITアンプです。

